

名誉会員 室賀三郎博士を偲ぶ

戸田 巖

本会名誉会員

室賀三郎先生は昨年12月9日に米国オークランドの病院で逝去されました。84歳でした。永くイリノイ大学教授をつとめられ研究・教育に精進されるとともに、米国の情報処理技術の動向を詳しく調査して日本企業へ警鐘を鳴らされる仕事も続けられました。研究、勉強のため、また室賀さんの警咳に接するため室賀さんのところに足を運んだ日本人の数は数百人に達します。ちなみに2003年に室賀さんのイリノイ大学退官を記念して東京で「室賀先生と洋子夫人に感謝する会」を開催しました。その際室賀さんの大学での教え子だけでなく直接間接に室賀夫妻にお世話になった200人近くの日本人が参加しました。

室賀さんは1947年東京大学ご卒業後日本国有鉄道技術研究所を経て、日本電信電話公社電気通信研究所に入所され、日本最初のパラメロン計算機MUSASINO-1を完成されました。またパラメロンをモデル化したしきい値論理(当時は多数決論理と呼んだ)を提案されその性質を研究し論文にまとめられました。

1960年に米国IBMのワトソン研究所に移られ、1964年にはイリノイ大学教授に就任されました。

イリノイ大学ではしきい値論理を進展され単行本にまとめられました。その後VLSI技術の誕生にあわせてしきい値論理の研究手法をVLSI論理設計に適用する研究を開始され画期的な成果を挙げられました。この設計法はTransduction法と名づけられ業界で広く採用されています。1974年に世界で最初のVLSI設計の授業を始められ、1982年に講義ノートをもとに“VLSI system design”という本を出版されました。室賀さんは日本から多数の若手研究者、学生を招いてこれらの研究に参加させました。室賀さんの研究指導は大変厳しかった

ようですが、反面大変面倒見のよい方で、公私双方またはいずれかで室賀ご夫妻のお世話になった方は多数おられます。その結果室賀ファミリーというべき室賀さんを囲む人脈が形成されました。

さきにも述べたように室賀さんは米国のコンピュータ業界の動向を知るため雑誌等を綿密に調査されておられました。そのデータと室賀さんご自身のご見識を国内コンピュータ各社に送付され各社内では室賀レポートとして珍重されました。その結果各社の首脳がこぞってアーバナの室賀さんを訪ねご意見を伺うようになり

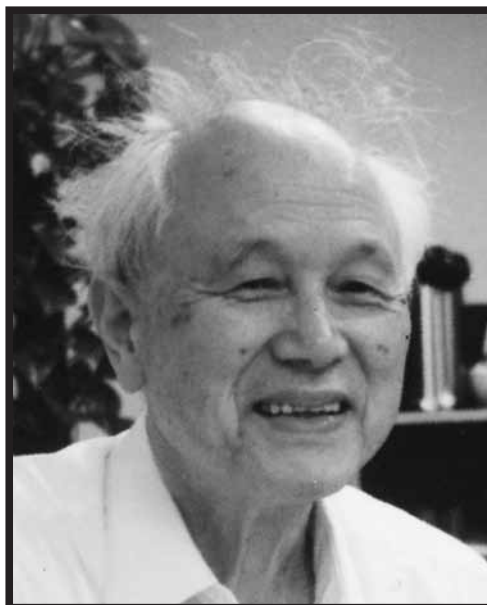
ました。室賀さんご夫妻のご自宅での歓待を受け各社の内情もお話になるので室賀さんは日本にいる日本人より日本通になりました。各社首脳も室賀さんのところで今まで知らなかった国内事情を知るといっても多々あったそうです。

2002年にイリノイ大学を退官され、お子様のおられるカリフォルニア州のオークランド市へ移られました。イリノイに比べて格段に温暖なカリフォルニアの気候が気に入られたようです。ここでVLSI system designの第2版をま

とめる意気込みでしたが、この志は残念ながら果たされませんでした。

室賀さんは私が1958年に日本電信電話公社電気通信研究所に就職したときの直接の上司でした。米国に行かれるまでの3年間ご指導をいただいただけでしたが、このご縁でその後もいろいろとアドバイスをいただいたり、イリノイ大学に呼んでいただいたり、時々米国からの電話でお叱りいただいたり終生の師となりました。室賀さんには人をひきつける何かがあったような気がします。心からご冥福をお祈りします。

(平成22年1月4日)



御 略 歴

1925年 3月15日 静岡県沼津生まれ
1947年 東京大学工学部卒業 日本国有鉄道技術研究所
1951年 日本電信電話公社電気通信研究所
1958年 東京大学工学博士
1960年 IBM Research Center
1964年 イリノイ大学教授
2002年 イリノイ大学退官
2009年 12月 9日 逝去（84歳）

1960年 4月 情報処理学会入会
1991年 5月 情報処理学会平成2年度功績賞
1998年 5月 情報処理学会名誉会員

受賞・栄誉

IEEE フェロー
1988～1990年 IEEE Distinguished Visitor
2004年 瑞宝中綬章